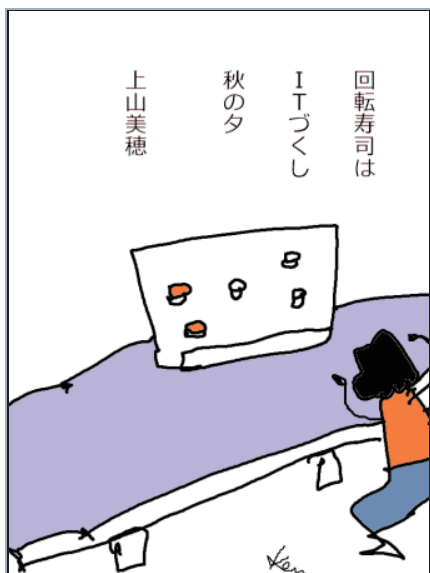


■今月の特選句

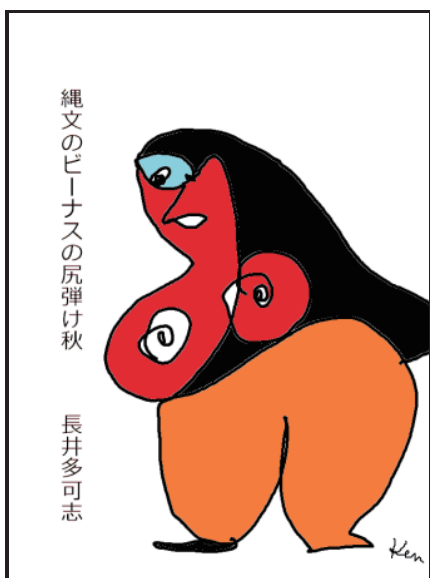
2024年11月



回転寿司はITづくし秋の夕

上山美穂

回転寿司では、タブレットで料理を注文し、機械やロボットが料理を運び、セルフレジで会計。人間と会話することもなく何だか働かされた気分。



縄文のビーナスの尻弾け秋

長井多可志

縄文時代の模様や絵柄は実にダイナミックで力強い。女性の乳房や尻が強調されるのは、命や神への畏敬の念が表現されている。「弾け」がいいね。



窓際を上手に生きておでん酒

永井流運

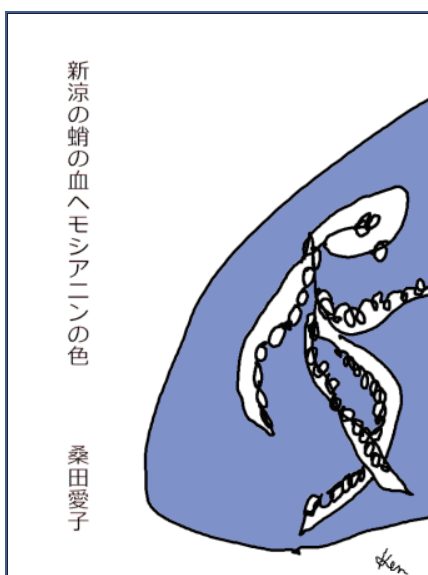
サラリーマンが組織の中で生きていくには、いろいろな知恵と工夫がいる。定年まで置かれた場所で勤めなきゃならん。おでんの辛子は多めだな。



里芋だけを食べたのは誰芋煮会

吉川正紀子

人数分の里芋を計算して用意していたが、足りなくなった。何度もおかわりをしていた数名に容疑がかかる。何となく里芋に似ているあの人かも。



新涼の蛸の血ヘモシアニンの色

桑田愛子

タコやイカなどの軟体動物は、ヘモグロビンがない代わりに、「ヘモシアニン」が体全体に酸素を運ぶそう。だから血の色が青い。へえー、知らなんだ。



憤怒こそ生き抜く力枯蝗螂

峰崎成規

「無駄飯食い」「早く辞めろ」と言われて奮起し、青色LEDでノーベル物理学賞を受賞した中村修二さん。「怒りが研究の原動力」と明言している。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

宅地化で死語となりゆく豊の秋

・・・日本の農政お粗末ゆゑに

横山洋子

名月や雲の薄衣脱ぎ給ふ

・・・まばゆいばかりに輝く裸身

桜井美千

大きくて安いサンマが懐かしい

・・・小さくなつたり値上がりしたり

加藤潤子

秋思かな褒める言葉に裏表

・・・奥歯に何か挟まつてゐて

柳 紅生

どの穴もすでに満室穴まどひ

・・・想定外に右往左往の

相原共良

鰯雲天上人が網を打つ

・・・雲の鰯を一網打尽

井口夏子

さはやかに握手交して失恋す

・・・恋の結末分からぬものよ

白井道義

食の秋食べることにエネルギー

・・・眠るも食べるも体力の要る

藤森荘吉

寝返へれば残暑も共に寝返りす

・・・残暑は付いて来なくていいに

月城花風

曼珠沙華騙し絵のごと失せにけり

・・・いつも突然現はれて消ゆ

西野周次

無花果の箱一杯を持て余す

・・・ジャムにするしか妙案なくて

高須賀溪山

地虫鳴く点いては消ゆる防犯灯

・・・防犯灯も呼吸するかに

花畑つくし

彼岸花並んで見ているランドセル

・・・どちらもきれいに整列をして

森岡香代子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

行くほどに果ての見えざる花野行く
 味噌も手造り母のいつもの衣かつぎ
 ようやくの日本力士に沸く相撲
 生身魂飽きないこの世と米の飯
 古妻の活断層がうそ寒い
 我楽多を片付け二百十日とす
 雀蛤となれず電線揺らしをり
 眠られぬ夜にはシャインマスカット
 蓑虫や孤高の闇の中に棲み
 コスモスや心中深く揺れやまず
 透き通るほどの命を蜉蝣飛ぶ
 名月を幾つ仰ぎて来しことか
 茂みから茂みを繋ぐ虫の声
 ふるさとの歌をうたう子ビル育ち
 花に嵐月にむら雲宇宙ごみ
 夜長かなまむしドリンク飲まされて
 点滴の葡萄糖液猛残暑
 眠られぬ夜長に何故か夢を見て
 栗拾ひ大小の顔のピッカピカ
 終電の椅子にチャッカリちちろ鳴く
 秋刀魚焼く隣家へ匂ひのお裾分け
 名月や兎が居ると思ひたき
 秋彼岸運転不得手庵主様
 クレーマー自認の夫やいぼりむし
 名月と等間隔のまま歩く
 「近寄るな」オーラを放つ曼珠沙華
 政治より今日の夕餉ぞ茸汁
 石榴爆ぜ青天井の青を知る
 脳はもう萎縮してるか鶏頭花

相原共良
 相原共良
 青木輝子
 青木輝子
 青木輝子
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 井口夏子
 井口夏子
 池田奈美子
 池田奈美子
 池田奈美子
 池田亮二
 池田亮二
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 稲葉純子
 稲葉純子
 稲葉純子
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 上山美穂
 上山美穂
 卯之町空
 卯之町空
 卯之町空

芋炊や暮れ行く秋のお御馳走

秋の七草愛でる流派は投げ入れて

冬じたくカルスト芒を揺らすだけ

粧う山にひそむミスターはぐれ猿

神の旅ハト派タカ派のノーサイド

銀杏散る旅の二人は隠し絵に

どんぐりのここていいかとかたまりぬ

コスモスの丘で餅焼く女かな

秋の雨人も御輿も光らせて

米不足届くのだらうか新米は

鎌で刈る昔の稲刈なつかしい

土星接近名月ながめに來たらしい

新米のその一粒にドラマあり

日本のいのち養ふ今年米

新米の重みの嬉し危機の時

なにが敬老の日か日々老老介護

水分の補給は西瓜水いらす

まんまるの月が出た出た月見井

オニヤンマ俺の山ぞと通せんぼ

秋の山愛車に猿が大あぐら

秋深し時々聞こえる虫の声

元気出る朝一番の林檎かな

曼珠沙華母の命日知らせてる

水溜まりあめんぼの国争はず

かなかなや俳句は知らぬはずなれど

相撲草いつもあやふき土俵際

秋団扇自分のことは自分でせよ

流星や大きく口を開けて見る

鴨のごとプールに泳ぐ幼子は

冬日和やつと娘と平調子

名月に見られつ犬の散歩かな

梅野光子

梅野光子

梅野光子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

小笠原満喜恵

岡本やすし

岡本やすし

岡本やすし

沖枇杷夫

沖枇杷夫

沖枇杷夫

加藤潤子

加藤潤子

門屋 定

門屋 定

門屋 定

北熊紀生

北熊紀生

工藤泰子

工藤泰子

工藤泰子

黒田恵美子

黒田恵美子

黒田恵美子

箸箱をガチャガチャ洗へば秋暑し

芒の穂先で頬を撫でなで帰り道

捨てられし空缶カラコロ葉月尽

すたすたと女ひとりの秋遍路

名月や枕のやうなオムライス

ハイツェーを出すテノールやキリギリス

栃木県佐野市出身轡虫

祭好き涼風好きや焼きまんぢゅう

忘れもの思ひ出す如舜花咲く

孫たちの蚊帳の体験枕投げ

予報士四苦八苦のろのろ台風

取り敢へず国旗かかげて敬老日

友減りて案山子にこぼす老いの愚痴

四国へと三つの橋や小鳥来る

着信音はロマンス詐欺か夜の長し

皺のばせば立派なメモ帳

私が合わせますあなたの歩調

コンビニの灯り夏の虫に似た目

秋暑し仕舞ひし簾また出して

盆栽の頭にびつしり白露かな

新走り優しくつがれ本音吐き

消印は値上げ前日九月尽

月明りランプの宿の窓照らし

桔梗や白き両手を合わせたり

筆力のなさ嘆くかに流れ星

急かされている気分して虫の声

啄木鳥の没頭しきつた打音かな

不精髭そのままにして松手入

肌寒が辛いスープを啜らせる

大切なもの手放した九月尽

広背筋今日も鍛えて天高し

秋めくや手がクリームを欲しがりぬ

桑田愛子

桑田愛子

桜井美千

桜井美千

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高須賀溪山

高須賀溪山

高田敏男

高田敏男

高田敏男

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

クリーニングのタグを揺らして秋の風

銀漢と対峙のできぬ度の眼鏡

電線に椋鳥たちの群読会

吉野家に行こう秋思を払うため

息を呑む通草の口に見つめられ

朝寒や大きな鼾いつまでも

鼻毛抜いてみれば白髪や暮の秋

影のある独居の庭に小鳥来る

秋風に長きプラットホームかな

鉄道の斜面を隠し葛の花

太陽を大きく映し秋茄子

始発バス次は終バス秋高し

へのへののが滲んでゐる案山子

思ひ出を語る白寿や天高し

古酒旨し歳を重ねるだけの吾

稲掛は育てた者への褒美なり

月旅行行ったら呑めぬ月見酒

流されて何が悪いかな翳雲

尺玉の満開のあと枝垂れけり

雀にも三行半の捨案山子

よかったあ秋刀魚のお値段庶民的

何食べてこんなに増えたか椋鳥は

生ビールまだまだうまい残暑かな

葛の花この世ゆつくり変はりゆく

秋つばめ水切り石のまつたいら

ハシビロコウを髣髴させる敬老席

大野ヶ原の泥付き大根手土産に

柞紅葉昨日のことはもう忘れ

柿の実に白い袋の服を着せ

虫の音と根気比べに一句成す

卒寿祝に市長の一行秋うらら

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

百目鬼強

百目鬼強

百目鬼強

尚山和桜

尚山和桜

尚山和桜

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

永井流運

永井流運

西野周次

西野周次

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

花畑つくし

花畑つくし

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

久松久子

久松久子

久松久子

飲みつぷり女つぷりよし新酒酌む
 言ひ過ぎの言葉長々林檎剥く
 傘持たぬ子を走らせる初時雨
 きりぎりす蟻とおんなじ秋に居て
 手練技ワンクリックで稲を刈る
 夜長なり徳利傾けまったりと
 恨み節いつまで残暑続くかと
 そぞろ寒政治屋共の夢芝居
 長き夜や胸に掌を組み眠る癖
 秋簾揺るや妾の転居跡
 かまつかや遊び足りない子の愚図る
 鳴らせども鳴らぬ鬼灯とは憎し
 螻蛄鳴くや繰り言いつまで続くやら
 藍色の秋潮わけて舟の行く
 突き出でて燃ゆる拳や鶏頭花
 恙なき一日に感謝蕎麦の花
 慣れはせぬいつまで続くこの暑さ
 芋嵐傘はバンザイさせられて
 降りて来てももう大丈夫赤とんぼ
 猫脚の椅子でながめる今日の月
 本流をうらめしげに見る崩れ築
 返り花消してまた書くボールペン
 人間と飛蝗が地球を食いつくす
 色遁の術よポストに赤とんぼ
 案山子さんミニスカートの女学生
 食べ過ぎて太めの鰯に親近感
 水に浮くくらいの嘘を墓参
 避難所暮らし鬼の捨子の気分して
 名月や妻を呼べども振りむかず
 ぶっかき氷百周年の甲子園
 稲守る無言の案山子の健気かな

日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 ほりもとちか
 松浦百重
 松浦百重
 松浦百重
 三木雅子
 三木雅子
 三木雅子
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 明神正道
 明神正道
 明神正道
 明神正道
 棕本望生
 棕本望生
 棕本望生
 村松道夫
 村松道夫
 村松道夫

稜線はおりてはのぼり秋の空

笑栗の熟し具合を確かめる

この秋刀魚とても切れ味良ささうね

夜咄のテーマは銀河手を広げ

新走めがけて鍛へ足と腰

手の中で何度撫でてでも青みかん

秋灯も全て発光ダイオード

夕空に広告を打つ鰯かな

紅白の光交互に林檎剥く

反抗を享けて涼しき更年期

スニーカーに歌い続けるつづれさせ

手練には遠き我が釣り紅葉鯛

最終便発つて冷やか滑走路

真夏の居座り秋を占拠する

新調の子ども御輿や刈田原

新涼や冬は間近に来てをりぬ

黄昏に光り放つや彼岸花

良夜なり夜勤帰りの靴の音

胸に轟く秋の祭の太鼓の音

燃え尽きる直前の色楓かな

荻の声心配事のあれやこれ

免許返納父の決断花野径

曲がりし腰へ机を合はせ秋燈下

お情けに風がひと吹き秋澄めり

敬老会次から次と忘れ物

雷笑ふしやがみて立てぬ我が膝を

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山下正純

山下正純

山下正純

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子